

北海道公立大学法人

札幌医科大学大学院

保健医療学研究科

看護学専攻 博士課程前期／後期

理学療法学・作業療法学専攻 博士課程前期／後期



Sapporo Medical University
Graduate School of Health Sciences
The Nursing Program and the physical Therapy and
Occupational Therapy Program

地域医療への貢献と

地域の保健・医療への貢献

専門分野の実践への貢献

▶ 教育理念

医療技術の進展、少子高齢化社会の進行、疾病構造の変化など、保健・医療・福祉を取り巻く社会動向は大きく変わりつつある。さらに、人々の生活環境の多様化、健康に対する意識の変化を背景に、保健・医療・福祉に対する期待は一層高まってきている。

▶ 保健医療学研究科の特色

本研究科は、北海道の保健・医療・福祉への貢献を大きな目的とし、保健医療学の質的向上と充実に寄与する高い専門性と研究力を備えた研究者・実践者を育成することを目的に、看護学専攻、理学療法学・作業療法学専攻を開設しています。

全国では2番目、北海道内で初の開設である伝統と歴史ある大学院

平成10年4月に博士課程前期（修士）、平成12年（看護学専攻は平成18年4月）に博士課程後期（博士）を開設し、全国の保健医療系大学院の中でも伝統ある大学として先駆的な役割を果たしています。

より高度な保健医療人の育成を目指す医療系総合大学

本学は医学部、保健医療学部の2学部4学科で構成される医療系総合大学です。保健医療学研究科は看護学専攻、理学療法学・作業療法学専攻からなり、各医療分野の課題探索に加え、共同研究による学際的な研究の機会が得られます。

社会人にも対応する学習環境

長期履修制度を導入し、職業を有している社会人が仕事と学業を両立できるよう支援しています。

また、24時間利用可能な図書館（全国に先駆けて最新の文献検索システム、文献複写システムを導入）と情報システムサービスの機能を備えた附属総合情報センターを併設し、仕事帰りも利用できる、あるいは自宅にいながら500タイトル以上の学術雑誌を閲覧できる環境を有しています。

看護学専攻の特色

修士論文コースと専門看護師コースの 2コースを設置

博士課程前期には修士論文コースと専門看護師コースの2コースがあります。専門看護師コースの実習は隣接する大学附属病院を中心に、道内の医療機関等と連携した学習環境を整えています。博士課程後期では、看護学の発展に寄与する研究を国内外に発信する10領域を開設しています。

理学療法学・作業療法学専攻の特色

基礎から臨床までの専門性の高い 多様な教育研究領域を設置

博士課程前期は理学療法学・作業療法学の基礎科学から臨床科学までを攻究できる14領域を、博士課程後期はより先端的研究を目指す12領域を開設しています。臨床研究のフィールドとして附属病院を活用することも可能です。

医学・医療の攻究

国際社会への貢献

保健医療の教育・研究への貢献

札幌医科大学保健医療学研究科では、関連諸科学と医療の進歩に対応し、地域の保健・医療・福祉の充実と社会の発展に貢献するために、豊かな学識を備えた医療人を育成するとともに、高度な研究能力を培うことを目指す。

▶ アドミッションポリシー

保健医療学研究科では、看護学・理学療法学・作業療法学の発展と、保健・医療・福祉の質の向上に寄与する高度な専門的知識、実践能力、研究能力を備えた実践者、研究者の育成を目指しています。そのため、以下のような人材を求めます。

博士課程前期

1. 保健・医療・福祉の諸課題に深い関心を持ち、その発展と問題解決に関わることを自己の目標としている人
2. 看護学・理学療法学・作業療法学に関する専門的な知識と技術を備え、批判的・論理的思考力を有している人
3. 多様化・複雑化する人々のニーズに応えるため、専門分野における卓越した実践能力を獲得したいと願っている人
4. 豊かな人間性と倫理性を有し、地域の保健・医療福祉に貢献する意思のある人
5. 研究成果を発信することにより、保健・医療・福祉の充実と発展に貢献する意思のある人

博士課程後期

1. 保健・医療・福祉の諸課題に広く深い関心を持ち、その発展と問題解決に関わることを自己の目標としている人
2. 看護学・理学療法学・作業療法学に関する専門的な学識、批判的・論理的思考力と科学的探求心を備え、新たな知の創造に意欲を有する人
3. 豊かな人間性と倫理性を有し、国際的な視座で人々の健康に貢献する意思のある人
4. 研究成果を国内外に広く発信することにより、保健・医療・福祉の発展に貢献するとともに、科学の発展に寄与したいと願う人

▶ カリキュラム

前期課程は、リサーチワークとコースワークを組み合わせたカリキュラム編成となっております。

本研究科では、2専攻を有する強みを活かして、研究倫理、保健医療情報システム、ヒューマンサイエンス研究法、保健医療統計学、病態生理学、病態治療学など、多様な学問基盤に対応するユニークかつ豊富な2専攻合同の共通科目を開講しています。専門科目については、基礎研究から臨床研究まで幅広い分野での研究が可能な教授陣の指導の下、特論・特論演習において専攻領域の専門性を深め、修士論文・課題研究において一連の研究過程をたどります。

専門看護師コースにおいては、高度な実践能力を培うための臨床実習が行われます。

看護学専攻

看護学分野 教育研究領域

博士課程前期

▶ 修士論文コース

あらゆるライフサイクルにある人、その家族、あるいは地域社会という幅広い課題をテーマとし、研究能力の開発を目指す修士論文コースは以下の10領域を設置しています。

- 基礎看護科学
- 老年健康看護学
- 感染看護学
- 精神看護学
- 女性健康看護学
- 地域看護学
- 小児健康看護学
- 臨床内科学
- 成人健康看護学
- 臨床外科学

▶ 専門看護師コース

日本看護協会が認定する専門看護師* (CNS) を目指す3分野の専門看護師コースを開講しています。いずれも日本看護系大学協議会の高度実践看護師教育課程 (38単位) の認定を受けています。

*資格取得には一定の実務経験と認定審査を受ける必要があります。

- 小児看護
- クリティカルケア看護
- 精神看護

博士課程後期

看護学のより高度な実践力を修得することはもとより、専門分野における高度な研究能力と深い学識を修得し、看護学各領域の研究成果を独創的な視点で企画し、その成果を広く発信できる研究者、教育者を育成することを目的として10領域を開設しています。

- ・ 基礎看護科学
…看護実践における科学的根拠ならびに心身の健康に関するテーマを探究します。
- ・ 感染看護学
…感染症患者や易感染状態の患者や家族の支援、および施設内や地域での感染制御システムの構築について科学的に探究します。
- ・ 女性健康看護学
…女性とその家族の健康問題を看護の視点から科学的に探究し援助方法論の開発を目指します。
- ・ 小児健康看護学
…小児と家族のQOL向上に寄与する根拠に基づく看護実践方法の開発を目指します。
- ・ 成人健康看護学
…成人期の状況的危機や基礎的研究について科学的視点より看護現象の応用を検証します。
- ・ 老年健康看護学
…高齢者の健康問題とその背景を総合的に考察し援助モデルの開発を探究します。
- ・ 精神看護学
…精神の健康問題に取り組む個人・家族・周囲への援助方法および実践モデルの確立と開発を目指します。
- ・ 地域看護学
…地域、在宅、産業、学校などの生活の場を対象として、系統的に健康を支援する科学的方法を探究します。
- ・ 臨床内科学
…生活習慣病・心臓血管病・腎臓病の病態や疫学について学び、その予防や内科的管理における実践的な看護理論を探究し新しい知見を得ることを目指します。
- ・ 臨床外科学
…疾患の病態、科学的根拠に基づいた治療戦略に関する最新知見を学習し、実践医療における看護学の新たな可能性を探究します。



<女性健康看護学ゼミ>



<アラーム音暴露の実験>



<看護学専攻・学位論文発表会>

修了生からのメッセージ

札幌保健医療大学 保健医療学部看護学科 中武 延

(看護学専攻 博士課程前期 成人健康看護学分野 修了)

私は本学保健医療学部看護学科を卒業後、附属病院に就職し、循環器内科病棟で勤務しました。卒業時より、もっと看護学を深く学びたいと思っていたこともあり、看護師として3年目の時期から、科目等履修生制度を利用し、大学院の講義に参加していました。その後、勤務する中で生じた疑問について探求したいと思った際に、研究を行ううえでの知識や経験が不足していることを痛感し、大学院への進学を決心しました。

本学は指導教員をはじめ、多くの先生方から手厚いサポートを受けて研究活動に取り組むことができる、非常に恵まれた環境です。研究に関する指導だけではなく、研究者としての心構え等も示してもらうことができ、とても学びになりました。ディスカッションが中心の講義やゼミでは、相手へ伝わりやすい表現を考え、工夫していく必要があり、プレゼンテーション能力も鍛えられたように思います。また、研究に取り組む仲間ができたことも大学院に進学したからこそその経験だと思っています。他の大学院生と活発な意見交換をし、切磋琢磨していくことは、研究に取り組む際の活力にもなりました。

今後は、在学中の学びを土台とし、研究者・教育者として貢献できるように、次のステップに進学することを検討しています。

皆様も是非、大学院への進学を検討してみてください。

理学療法学・作業療法学専攻

博士課程前期

本課程では基礎医科学系分野と臨床医科学系分野の教授陣を配置し、理学療法学・作業療法学の基礎科学から臨床科学までを攻究できる14領域を開設し、保健医療の中で重要な理学療法学・作業療法学の専門領域の基盤となる高度な知識、健康の追求に必要な科学的根拠、質の高い専門的技術が提供できる人材を育成することを目的としています。

博士課程後期

本課程では理学療法学・作業療法学の基礎科学から臨床科学までの専門性の高い先端的な研究を目指すため、12領域を開設し、様々な医療拠点、研究拠点において、問題の解決に果敢に挑戦し、成果を国内外に発信できるリーダーであり、深い学識を持って信頼される専門性を持った医療者・研究者を養成します。

理学療学分野 教育研究領域

●神経・発達障害理学療法学 前期 後期

神経系の発達を含む神経生理全般の最新知見に触れながら、神経障害、運動発達障害に関連する様々な事象を総合的に学びます。

●生体工学・スポーツ整形外科 前期 後期

生体工学（バイオメカニクス）では、ヒトの運動や機能を力学的観点から解析します。

●スポーツ理学療法学 前期 後期

スポーツ活動を実践するあらゆる母集団やクライアントを対象として、安全で効果的なスポーツ活動や運動療法の研究を進めています。

●筋機能制御学 前期 後期

科学的根拠に基づいた筋弱体化に対する効果的な運動・物理療法プログラムの具現化を目指しています。

●生体機能評価学 前期 後期

非侵襲の医用イメージング技術と運動学的手法を活用し、ヒト生体軟組織の形態・機能・性状の包括的な評価方法について研究しています。

●形態人類学 前期 後期

様々な人類集団における、形態の環境適応や機能的適応の変遷を探る研究が対象となります。

作業療学分野 教育研究領域

●感覚統合障害学 前期 後期

感覚情報の脳内処理メカニズムとその問題によって生じる行動上の特徴を、反応時間課題、道具操作時の運動特性、姿勢保持を行いやすくする座面シートの開発等から明らかにしています。

●中枢神経機能障害学 前期 後期

高次脳機能障害や運動機能障害及び感覚機能障害の症状特性と機能回復のメカニズムについて学習し、より適切な評価方法や介入方法についての検討を行います。

●活動能力障害学 前期 後期

日常生活に不可欠な上肢・手指機能に注目し、身体に障害を持った方と作業活動の間の相互作用、影響要因を、基礎的研究や臨床研究を通して明らかにしていきます。

●臨床精神・脳機能学 前期 後期

臨床精神医学の基礎を概観し、精神疾患を脳機能の観点から理解を深めることで、精神科診療におけるリハビリテーションの研究開発と洗練された臨床実践を目指します。

●精神障害リハビリテーション学 前期 後期

精神障害を持つ人の主体的な回復（リカバリー）を目指し、脳活動や各種心理的指標を用いて認知や感情、行動特性の検討とリハビリテーションの開発・検証を行います。

●神経・認知機能治療学 前期 後期

脳卒中、認知症、神経難病など臨床現場における課題分析や疾病教育を通して、治療学へ貢献するとともに、専門職が活躍できる領域の拡大を目指します。

●作業科学 前期

作業科学は、作業とその作業を営む人々（作業的存在）を研究対象とする学問領域です。作業と作業的存在を理解するための主要な概念と理論、さらに作業と健康との関連を探求します。

●地域生活科学 前期

地域で生活する高齢者や障害者のケア推進、地域住民の疾病や予防に対するセルフマネジメント、地域住民が主体となる地域エンパワメントの展開、さらにノーマライゼーションの視点で地域リハビリテーションを科学します。



<筋機能制御学ゼミ 実験室>



<機能評価演習>

修了生からのメッセージ

独立行政法人日本スポーツ振興センター ハイパフォーマンススポーツセンター 国立スポーツ科学センター
スポーツ科学・研究部 小出所 大樹
(理学療法学・作業療法学専攻 博士課程後期 生体機能評価学分野 修了)

私は本学学部卒業後、そのまま大学院に進学しました。大学院への進学理由は、学部時代の臨床実習や卒業研究を通じて、理学療法分野においても研究による根拠が乏しく、不明確な部分が多いことを感じ、それらを解決するための研究手法を大学院で学ぶことができると考えたからです。

大学院時代は、指導教員のサポートはもちろん、本学医学部整形外科学講座や解剖学講座の先生方にも協力いただき、研究活動を進めることができました。その成果は国内外の学会発表や国際学術誌への掲載につながりました。また、在学期間中には研究のみならず、附属病院や関連病院での非常勤理学療法士として臨床経験も積むことができました。これらの経験から、研究のための研究ではなく、現場に還元することを意識した研究の重要性を認識することができました。

修了後は理学療法士ではなく、研究員として国立スポーツ科学センターに採用されました。日本の国際競技力向上を目標として、アスリートに対する科学的サポートや研究を行うことが主な業務内容となります。大学院で培った研究能力はもちろん、理学療法士としての視点を生かして研究活動をしていきたいと考えています。大学院での学びは、病院施設以外での就職・活動にも非常に有益なものになると思います。理学療法士・作業療法士としての強みを生かすためのキャリア形成に向けた選択肢として、本学大学院への進学を検討されるのはいかがでしょうか。

一視同仁会 札幌・すがた医院 田中 悠希

(理学療法学・作業療法学専攻 博士課程前期 感覚統合障害学分野 修了)

私は本学卒業後、6年間の病院勤務を経験した後大学院博士課程前期に進学しました。様々な患者様のリハビリに携わらせていただくからこそ直面する臨床疑問、しかし研究的知識を持っていない当時の私は、すべてを解消しきれないまま業務にあたるという状況でした。そんな日々を変えたい、という思いで大学院への進学を決意しました。

長期履修制度を利用し、勤務をしながらの大学院生活でしたので、講義、レポート提出、研究活動は決して楽にこなせるタスクではありませんでしたが、自分自身の研究に加え、ゼミの皆さんの研究に触れることで、研究の基本的構造の作り方、プレゼンのコツなど、大学院だからこそ得られる多くのスキルを身につけることができました。臨床現場中心の生活に戻った今、この3年間の経験は根拠に基づいたリハビリの提供、院内での研究活動はもちろん、症例報告に励んでいる後輩への指導にも活かすことができます。

私自身大学院に進学するまで、文献抄読や学会発表の経験も少なく不安もありましたが、先輩方や教授をはじめとする多くの先生方からの温かいご指導、そして何よりも疑問をそのままにせず探求する気持ちを抱き続けられたことで無事に修了することができたと感じています。

大学院への進学はハードルが高いと感じる方も多いと思いますが、探求心さえあれば一生モノの経験を重ねることができる時間になると思います。是非、本学大学院への進学を検討してみたいはいかがでしょうか。

長期履修制度

社会人入学生等を対象に、標準修業年限を超えて履修する制度を設けています。長期履修の申請にあたっては、事前に指導予定教員と相談してください。

● 申請資格

長期履修の申請ができるのは、職業を有している等の事情により、標準修業年限において修了することが困難と見込まれる方です。職業を有している等とは、有職者（正規職員以外を含む）その他のやむを得ない事情にあることをいいます。

● 修業年限及び在学期間

博士課程前期 4年（標準修業年限 2年）
博士課程後期 6年（標準修業年限 3年）

● 申請時期

長期履修希望者は入学試験合格後、別に定める期間内に「長期履修申請書」を事務局学務課大学院係に提出してください。

なお、入学後における申請は認めません。

● 授業料

授業料の年間納付額は、通常の授業料の年額に標準修業年限に相当する年数（博士課程前期2年、博士課程後期3年）を乗じて得た額を、長期履修を認められた年限の年数（博士課程前期4年、博士課程後期6年）で除した額とします。長期履修を認められた学生が、履修期間を短縮する場合は、授業料の差額を納付しなければなりません。

なお、在学中に授業改定が行われた場合には、新授業料が適用されます。

科目等履修制度

本学大学院学生以外の方に、大学院で開講する一部の授業科目の履修を認め、一定以上の成績を修めた場合に本学大学院の単位を授与します。修得単位は、将来、本学大学院に入学された際に、原則として10単位まで修了単位とすることができます。その他聴講生も受け入れています。

*詳細は下記あて先までお問い合わせください。

アクセス

- 地下鉄東西線「西18丁目駅」
6番出口より徒歩5分
- 市電「西15丁目」より徒歩5分
- JR札幌駅バスターミナルよりJR北海道バス(啓明線 [51])「医大病院前」下車
- JR桑園駅よりJR北海道バス(桑園円山線【桑11】)「医大病院前」下車



大学院に関する
お問い合わせ先

北海道公立大学法人 札幌医科大学 事務局学務課大学院係

〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目

電話:011-611-2111(内線23770)

URL:<https://web.sapmed.ac.jp/hokegaku/graduate/nyuushi>

